

# 依頼発話行為のポライトネス選択における 負担度の影響

趙 丹楠

## Selection of politeness strategies influenced by the degree of imposition in the speech act of request

ZHAO Dannan

### 要旨

本論文から発話行為の礼儀理論から、根據依頼負担度の不同是否会影响两国母语話者对礼儀策略用語的选择为分析视角。調査対象为20代の大学生、日本語話者20名和中文母语話者20名、調査者の关系为相互认识关系。通过角色扮演的調査方式、以借钱为目的、依頼の負担度分为轻度(借3千日元)和重度(3万日元)。調査結果为、日本語話者之间不论依頼の負担度は轻是重、使用间接礼儀策略最多。由此可见日本語話者比起“传达信息”、更看重“人际关系”。而中国語母语話者之间轻度依頼时、在礼儀策略的选择上会有个人差别、在重度依頼时、与日本語話者相同、使用间接礼儀策略最多。由此可见中国語母语話者在轻度依頼时“传达信息”与“人际关系”之间因人而异、而重度依頼时与日本語話者相同、更看重“人际关系”。

キーワード：発話行為 ポライトネス・ストラテジー 依頼行為の負担度  
日本語話者 中国語話者

### 1. はじめに

日常生活の中には様々な依頼行為がある。相手との関係、または依頼したいことの負担の度合いなどによって、依頼表現の使用実態が異なる。例えば、

場面①：財布を忘れてしまう時に、友達にお金を借りる。

A1：Bさん、3000円貸してほしい。

A2：すみません、今日は財布を忘れてしまった。3000円貸していただけませんかでしょうか。明日絶対返します。

場面②：好きな人に告白する。

A1：付き合ってください。

A2：月が綺麗ですね。

場面③：引っ越しの手伝い

A1：私は来週引っ越しますから、Bさんしか頼めないから、手伝ってくれる？

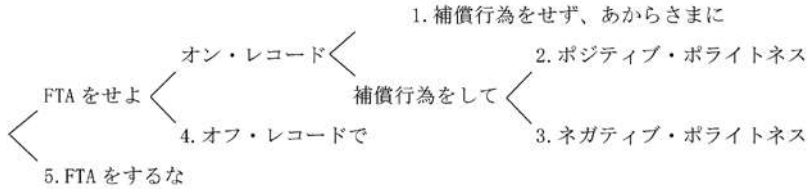
A2：私は来週引っ越す予定で、手伝って来て、終わったら、ご飯をおごるよ。

以上の例において、依頼者は自分の目的を遂行するために、同じ依頼行為であっても情報の伝達方法が異なる。滝浦は情報伝達の観点から、「情報伝達の効率性を最大化すると、対人配慮は反比例的に最小化される。反対に、対人配慮を大きくしようとするれば、情報の伝達効率を犠牲にしなければならない。」(滝浦 2018: 28) と述べる。

## 2. 先行研究

グエン (2014) は日本語における「本当に」「いいですか」について、言語形式から依頼者の確認要求とみなされがちであるが、実際は被依頼者に向けた負担軽減であることを指摘している。また、グエン (2014) はこれらの表現は依頼者が被依頼者に依頼を承諾する、あるいはしたことに対する配慮であったり、また感謝の意を表することで、被依頼者の負担を軽減するための発話であるとする。さらに、この負担軽減の出現する文脈を検討すると、いずれも依頼者は被依頼者の承諾に疑念を抱いているわけではなく、もし、依頼者がこのような表現を使用せず、ありがとうという感謝表現のみを使用した場合には、「相手がその依頼を受けるのが当然である」と受け取られてしまい、被依頼者を傷つけてしまいかねないとする。

Brown & Levinson (1987) はポライトネスが表現・伝達される具体的な手段のことをポライトネス・ストラテジー (politeness strategy) と呼ぶ。「フェイス侵害行為 (face threatening act [FTA])」を行う際に、その行為によって相手のフェイスをなるべく脅かさないようにするために、どのような言語行動を選択するか、という方策に関わるものである。例えば、依頼を行う際に、どのような依頼表現を選択するのか。相手との上下関係・親疎関係はどのように捉えるのか。相手への負担度はどのように判断するのかなど、様々な要因を考慮すべきである。その依頼の目的を達するために、図 1 に示した。



(B&L 1987, 田中 2020 : 89)

図1 FTAを行うため可能なストラテジー

「1. あからさまに」行為をするとは、(例えば、「Xをしろ!」(Do X!)と云って要請するように)できるだけ直接的ではっきりと簡潔な仕方で行うことである(Brown & Levinson 1987, 田中 2020 : 90)。

「2. ポジティブ・ポライトネス」はH(聞き手)のポジティブ・フェイス、つまりHは求める肯定的自己イメージに向けられる。例えば、相手を仲間の一員、友達、その欲求や人格的特性が知られ、かつ好まれている人として偶することが相当する。

これに対して「3. ネガティブ・ポライトネス」は主としてHのネガティブ・フェイス、つまり自分の縄張りや自己決定権を守ろうとするHの基本的欲求に向けられ、それを(補償し)部分的に満足させようとする(Brown & Levinson 1987, 田中 2020 : 91)。

「4. オフ・レコード(ほのめかし)」メタファーやアイロニー、修辞疑問、控えめ表現、トートロジー、話し手が伝えたいと思う事柄を直接には言わずその意味をある程度交渉可能にして伝えるようなすべての種類のほのめかしが含まれる(Brown & Levinson 1987, 田中 2020 : 90)。

「5. FTAを行わない」を選択する場合の利益はS(話し手)がその特定のFTAによってHを威嚇するのを避けるということにすぎない(Brown & Levinson 1987, 田中 2020 : 94)。

以上の説明によると、「ポジティブ・ポライトネス」と「ネガティブ・ポライトネス」の2つのポライトネス・ストラテジーは補償行為があるが、「ポジティブ・ポライトネス」の補償行為は相手との距離を縮め、相手のなわばりを踏み合い、「共感」を喚起することに対して「ネガティブ・ポライトネス」の補償行為は相手の領域に踏み込みたくない、相手の負担を最小限にすることであるといえることができる。

Brown & Levinson (1987)はこのポジティブ・ポライトネス・ストラテジーについて、下記のように15種類の下位ストラテジーを提唱している(Brown & Levinson 1987: 101-129, 訳は田中 2020 : 137-178を参照)。

- ストラテジー 1：相手（の関心・欲求・必要・所有物）に気づき・注意を向ける
- ストラテジー 2：相手への興味・同意・共感を）誇張する
- ストラテジー 3：相手への関心をより強いものにする
- ストラテジー 4：内輪である標しを用いる
- ストラテジー 5：一致を求める
- ストラテジー 6：不一致を避ける
- ストラテジー 7：共通基盤を仮定する・喚起する・主張する
- ストラテジー 8：冗談を言う
- ストラテジー 9：相手の欲求についての知識と気遣いと主張しまた仮定する
- ストラテジー 10：申し出・約束する
- ストラテジー 11：楽観視する
- ストラテジー 12：自分と相手の両者を行動に取り組み
- ストラテジー 13：理由を言う（また尋ねる）
- ストラテジー 14：相互的であると見なした主張する
- ストラテジー 15：（物・共感・理解・協力を）相手に贈与する

つまり、ポジティブ・ストラテジーは、相手との距離を縮め、相手のフェイスに積極的に関わろうとする「共感」、「連帯」を持つとする。

また、ネガティブ・ポライトネスとは、「他者に立ち入ってほしくない」、「自分の行動を邪魔されたくない」、「他者と距離をおきたい」という欲求であり、以下の 10 種類の下位ストラテジーが認められる（B&L 1987: 129-211, 訳は田中 2020: 181-300 を参照）。

- ストラテジー 1：慣習的な間接性に訴える
- ストラテジー 2：質問する・曖昧化する
- ストラテジー 3：悲観視する
- ストラテジー 4：負担（Rx）を最小化する
- ストラテジー 5：敬意を示す
- ストラテジー 6：謝罪する
- ストラテジー 7：自分と相手を非人称化・非個人化・非人格化する
- ストラテジー 8：FTA を一般則として述べる
- ストラテジー 9：名詞化する
- ストラテジー 10：自分が借りを負うこと・相手に借りを負わせないことを明言する

## 2.2 依頼表現の定義

依頼表現に関する定義は様々であるが、蒲谷・川口・坂本（1993）によると、依頼表現は自己の実現したい事柄を、他者の好意による行動によって叶えられるよう働きかける表現行為と述べている。趙（2019）は依頼という発話行為は、「相手に何かをお願いする際に使われる表現である」と述べている。

## 3. 研究目的

本研究の目的は、日本語母語話者と中国語母語話者が相手に借金をする際に、母語で情報を伝達する際に、それぞれにどのようにポライトネス・ストラテジーを選択するのかを分析する。また、ポライトネス・ストラテジーを選択した側面から日中両言語の発話行為は「効率性」と「対人配慮」はどちらを重視するのかを明らかにしたいと考える。

## 4. 研究方法

### 4.1 協力者

本研究の協力者は社会的地位が同等の知り合い関係の大学生を対象とし、日本語母語話者（以下JNS）20名（男性9名、女性11名）、と中国語母語話者（以下CNS）20名（男性20名、女性0名）である。相手への負担度の度合いが依頼発話行為に影響を与えるため、負担度を軽度と重度に分け、40件の会話例を収集した。年齢は日本語母語話者が20歳から21歳で、中国語母語話者は21歳から27歳である。

### 4.2 調査方法

本研究では、ロールプレーで調査を行い、発話行為データを収集する。ロールカードを作成し、依頼者と被依頼の役割、場面状況を記し、日本語母語話者用の日本語版と、中国語母語話者に中国語で依頼発話行為をしてもらうための中国語版の2種類を用意する。ロールプレーを録画し、すべて文字化をする。

依頼発話行為に影響を与える相手への負担度の度合い別に2つの場面を設定した。軽度の場面は「大学の書店で新学期の授業のテキストを買おうとしたのですが、手持ちのお金が足りなくて、3000円を借りる」とし、重度の場面は「両親からの仕送りは10日ほど遅れ、家賃の支払いの期限が迫り、3万円を借りる」とした。各グループ分けを行い、各条件にも振り分けて分析を行う（表2参照）。

表2 各グループ・条件

負担度・軽度		負担度・重度	
JNS → JNS	CNS → CNS	CNS → CNS	JNS → JNS
10組	10組	10組	10組

## 5. データの分析方法

今回日中両言語について軽度と重度による依頼表現はそれぞれ10件を収集した。辻岡（2019）によると、非敬語形の普通体、非敬語形の丁寧体、敬語形の丁寧体といった3つの組み合わせから分類ができると述べられている（表3参照）。本研究では、辻岡（2019）の行為要求表現の分類表を参照し、収集したデータの中で、出現した40件の依頼表現について、Brown & Levinson（1987）のポライトネス・ストラテジーの分類基準に基づき、コーディングし、分析する。

辻岡（2019）の行為要求表現の分類表による「非敬語形の普通体」と「非敬語形の丁寧体」はB & Lのポライトネス・ストラテジーの分類基準により「1 あからさまに言う」とする。また、「敬語形の丁寧体」は「3 ネガティブ・ポライトネス」とする。

そして、B & Lの「1 あからさまに言う」は直接に依頼表現を使用することである。そして、被依頼者のなわばりに踏み込んで、相手との距離を縮め、共感を示す「3万円貸してくれたらめっちゃ助かるんだけど、」のような表現は「2 ポジティブ・ポライトネス」とする。また、「相手に邪魔されたくない」、Brown & Levinson（1987）の「ストラテジー4：負担（Rx）を最小化する」で、被依頼者は「それで明日必ず会った時に返すから、あ、いやあの授業が終わってお金をおろしに行くからその時に返すわ、今日中に返します。」といった表現は「3 ネガティブ・ポライトネス」とする。最後に「4 ほのめかし」は依頼表現を言及せず、「情報説明」などの表現とする。「5 FTAを行わない」は今回の調査対象としない。

録音データは全て文字化するが、Brown & Levinson（1987）のポライトネス・ストラテジーの分類基準に基づき、「依頼—承諾」または「依頼—断る」のように完結した依頼表現だけを使用する。

表3 辻岡行為要求表現の分類

依頼形式の組み合わせ	行為要求表現
(I) 非敬語形の普通体	しろ／してくれ
	して
	やる／する
	したい／ほしい
	できる？
	してくれる？／してくれない？
	してもらえる？／してもらえない？
	してもいい？／してもらっていい？
(II) 非敬語形の丁寧体	してくれますか？
	してくれませんか？
	してもらえますか？
	してもらえませんか？
	してもらってもいいですか？
	してください
(III) 敬語形の丁寧体	(お) してください
	くださいますか？
	くださいませんか？
	していただけますか？
	していただけませんか？

## 6. 結果

表4 負担度により JNS・CNS のポライトネス・ストラテジーの選択の統計

P・S 負担度	1 あからさま に言う	2 ポジティブ・ ポライトネス	3 ネガティブ・ ポライトネス	4 仄めかし	合 計
JNS・軽度	7 (28.0%)	1 (4.0%)	6 (24.0%)	11 (44.0%)	25 (100.0%)
JNS・重度	9 (24.3%)	3 (8.1%)	5 (13.5%)	19 (51.4%)	37 (100.0%)
CNS・軽度	7 (33.3%)	5 (23.8%)	3 (14.3%)	6 (28.6%)	21 (100.0%)
CNS・重度	6 (20.0%)	3 (10.0%)	12 (40.0%)	9 (30.0%)	30 (100.0%)

調査の結果によると、日本語母語話者は負担度・軽度の依頼を行う際に、よく使われたポライトネス・ストラテジーは「4 仄めかし」であり、11 回で 44% を占めているが、「2 ポジティブ・ポライトネス」はほぼ使用せず、1 回で 4% に過ぎないことがわかった。負担度・重度の依頼を行う際に、同じように「4 仄めかし」は一番多く使われており、19 回で 51.3% を占めているが、「2 ポジティブ・ポライトネス」は 3 回で 8.1% に過ぎないことがわかった。

中国語母語話者は負担度・軽度の依頼を行う際に、よく使われたポライトネス・ストラテジーは「1 あからさまに言う」であり、7 回で 33.3% を占めているが、「3 ネガティブ・ポライトネス」はあまり使用せず、3 回で 14.3% に過ぎないことがわかった。負担度・重度の依頼を行う際に、「3 ネガティブ・ポライトネス」は最も多く使用しており、12 回で 40% を占めているが、「2 ポジティブ・ポライトネス」はあまり使用せず、3 回で 10% に過ぎないことがわかった。

最後に、日中両言語のポライトネス・ストラテジーの選択は、日本語母語話者は全体的に見ると、負担度・軽度でも重度でも一番多く使用したのが「4 仄めかし」であり、「2 ポジティブ・ポライトネス」はあまり使用しないことがわかった。負担度・軽度でも重度でも「4 仄めかし」は他のポライトネス・ストラテジーより極めて大きな差があり、日本語母語話者は被依頼者に自分の行動を邪魔されたくないと考え、情報伝達の「効率性」より「対人配慮」のほうを大切に考えることがわかった。また「3 ネガティブ・ポライトネス」は「1 あからさまに言う」より僅かに使用数が多いことがわかった。最後に、負担度・重度のポライトネス・ストラテジーの使用量は負担度・軽度より多いことがわかった。中国語母語話者は全体的に見ると、負担度・軽度の場合においては、「1 あからさまに言う」「2 ポジティブ・ポライトネス」「4 仄めかし」の使用頻度に、顕著の差異がないことに対して、負担度・重度の場合では、「3 ネガティブ・ポライトネス」は他のポライトネス・ストラテジーより大きな差がある。中国語母語話者は負担度・軽度の場合が情報伝達の個人差があり、重度の場合では、情報伝達の「効率性」より「対人配慮」のほうを重視することがわかった。最後に、負担度・重度のポライトネス・ストラテジーの使用量は負担度・軽度より多いことがわかった（表 4 参照）。

次の章では、質的分析で両言語の依頼表現は負担度の度合いにより、それぞれに分析を行う。

## 7. 考察

会話例に個人名などのデータが出現した場合には、個人情報保護の観点から、以下、依頼者を A、被依頼者を B とする。また、Brown & Levinson (1987) のポライトネス・ストラテジーの選択は各会話例の前に示した。



## 7.1 日本語母語話者・負担度・軽度

下記の会話例1では依頼者は次の依頼行為を行うために、教科書を買うのに、所持金が足りないことを一つ一つの情報を説明し、その後、「どうしよう」と述べることにより、被依頼者への協力を求め、間接的な依頼行為を行っている。被依頼者の「3000円貸そっか?」という発話に対し、「え、マジ! いいの?」と述べ、「本当に? いいの?」、「マジで、え、じゃ」のように負担軽減として被依頼者を気遣っている。このような負担軽減の表現は、グエン（2014）が指摘する通り、日本語母語話者の発話行為の依頼表現においては、被依頼者への負担度が軽い場面においても特徴的である。

ここでは情報説明は「4 仄めかし」とし、また「どうしよう。」という暗示的な表現も「4 仄めかし」とする。最後の「え、マジ! いいの?」は負担軽減で被依頼者のなわばりを侵したくない、被依頼者を邪魔されたくないことで「3 ネガティブ・ポライトネス」とする（会話例1参照）。

### 会話例1 ポライトネス・ストラテジーの選択：4-4-3

依頼者の情報説明	
依頼者	どうしよう。
被依頼者	3000円貸そっか?
依頼者	え、マジ?! いいの?
被依頼者	うん。
依頼者	本当に? いいの?
被依頼者	明日必要なら、
依頼者	マジで、え、じゃ、

下記の会話例2においては、依頼者は次の依頼行為を行うために、個々の情報を説明し、その後、「貸してくれますか?」という行為要求表現の直接依頼を述べた後、被依頼者が承諾した。ここでは情報説明は「4 仄めかし」とし、直接依頼は「1 あからさまに言う」とする（会話例2参照）。

### 会話例2 ポライトネス・ストラテジーの選択：4-1

依頼者の情報説明	
依頼者	貸してくれますか?
被依頼者	いいよ。

会話例3では依頼者は次の依頼行為を行うために、個々の情報を説明し、その後、「明日まじですぐ返すから」という保証行為を述べた。そして「貸して欲しい、お願いします」

という行為要求表現の直接依頼を述べた後、被依頼者への負担軽減を気遣っている。

ここでは依頼者の情報説明は「4 仄めかし」とし、保証行為は「まじで」を使用し、若者言葉であり、被依頼者との距離を縮めたい行為で「2 ポジティブ・ポライトネス」とする。また「貸して欲しい、お願いします」という直接依頼は辻岡（2019）の行為要求表現によると、「～ほしい」は非敬語形の普通体であり、「1 あからさまに言う」とする。最後に「もしよければ、お財布にお金があれば」という可能形を使用し、依頼遂行の能力があるかどうかを判断できず、被依頼者のなわばりを踏み込またくない表現であり、「3 ネガティブ・ポライトネス」とする（会話例 3 参照）。

### 会話例 3 ポライトネス・ストラテジーの選択：4-2-1-3

依頼者の情報説明	
依頼者	明日まじですぐ返すから、貸して欲しい、お願いします！もしよければお財布にお金があれば
被依頼者	えーと、いま、じゃ私 5000 円あるんだけど、じゃ 3000 円貸せるから、貸します。

下記の会話例 4 においては、依頼者は次の依頼行為を行うために、個々の情報を説明した後、「もしよければ、本当に申し訳ないけど貸して頂けませんか？」という依頼表現を用いる。辻岡（2019）の行為要求表現によると、「～していただけますか？」は敬語形の丁寧体である。最後に「明日必ず会った時に返すから、あ、いやあの授業が終わってお金をおろしに行くからその時に返すわ、今日中に返します。」という保証表現においては、「明日」「授業が終わって」「今日中」の 3 回を出現し、被依頼者が承諾する。

ここでは依頼者の情報説明は「4 仄めかし」とし、控えめ表現と「～していただけますか？」という表現は「3 ネガティブ・ポライトネス」とする。被依頼者の負担の小ささを強調する保証行為も「3 ネガティブ・ポライトネス」とする（会話例 4 参照）。

### 会話例 4 ポライトネス・ストラテジーの選択：4-3-3

依頼者の情報説明	
依頼者	もしよければ、本当に申し訳ないけど貸していただけますか？
被依頼者	今日、いま B に 3000 円を貸せばいいのこと？
依頼者	そう、それで明日必ず会った時に返すから、あ、いやあの授業が終わってお金をおろしに行くからその時に返すわ、今日中に返します。

## 7.2 日本語母語話者・負担度・重度

日本語母語話者による負担度・重度の会話例を見ると、会話例5で先に「ちょっと、大事な話があるんだからさあ、」という前置きを述べた後、依頼者は次の依頼行為を行うために、個々の情報を説明するという例が見られる。また「マジ返すから」という若者言葉は親しい関係の言い方であり、これに続けて、非敬語形の普通体の直接依頼表現を述べる。

ここでは前置き表現は「4 仄めかし」とし、依頼者の情報説明は「4 仄めかし」とする。保証表現の「マジ」という非正式的な表現は「2 ポジティブ・ポライトネス」とする最後に、非敬語形の普通体の直接依頼表現は「1 あからさまに言う」とする（会話例5参照）。

### 会話例5 ポライトネス・ストラテジーの選択：4-4-2-1

依頼者	ちょっと、大事な話があるんだからさあ、
中略	
依頼者の情報説明	
依頼者	それが、本当10日後、マジ返すから、貸してほしいんだよ。

下記の会話例6においては先に「あのさあ、ね、相談なんだけど、」という前置きを述べた後、依頼者は次の依頼行為を行うために、個々の情報を説明する。そして依頼表現を言及する前に被依頼者へのなわばりを踏み込むことに対して「本当に本当に申し訳ないんだけど、」という敬避的配慮を使用する。最後に、「貸していただけたら、貸していただきたい。そうしても、すぐお金入ったら、すぐ返すので、どうでしょうか？」という敬語形の丁寧体の依頼表現と負担軽減の保証表現を述べる。

ここでは前置き表現は「4 仄めかし」とし、依頼者の情報説明は「4 仄めかし」とする。敬避的配慮の謝罪表現は「3 ネガティブ・ポライトネス」とする。最後の敬語形の丁寧体の依頼表現と負担軽減の保証表現も「3 ネガティブ・ポライトネス」とする（会話例6参照）。

### 会話例6 ポライトネス・ストラテジーの選択：4-4-3-3

依頼者	あのさあ、ね、相談なんだけど、
中略	
依頼者の情報説明	
依頼者	本当に本当に申し訳ないんだけど、3万円ほど、
被依頼者	うん。
依頼者	貸していただけたら、貸していただきたい。そうしても、すぐお金入ったら、すぐ返すので、どうでしょうか？

### 7.3 中国語母語話者・負担度・軽度

中国語母語話者による負担度・軽度の会話例を見ると、会話例7では依頼者は「幸好碰到你了（会えてよかった）」という共感的な働きが強い表現を使用し、また直接に「你带没带 3000 块钱（3000 円持ってる?）」という許可の先取りを合わせた表現を述べる。最後に、「快借我一下我待会买书用（ちょっと貸して、教科書を買に行きから）」という非敬語形の普通体の依頼表現を使用する。

ここでは共感的な働きが強い表現は「2 ポジティブ・ポライトネス」とし、被依頼者は 3000 円持っているかどうかを直接に聞く行為は楽観視するので、これも「2 ポジティブ・ポライトネス」とする。最後の非敬語形の普通体の依頼表現は直接依頼で「1 あからさまに言う」とする（会話例7参照）。

#### 会話例7 ポライトネス・ストラテジーの選択：2-2-1

依頼者	诶，B，幸好碰到你了。你带没带 3000 块钱？快借我一下我待会买书用，我钱包落家了。（あの、Bさん、会えてよかった。3000円持ってる？ちょっと貸して、教科書を買に行きから、財布を家に忘れてしまったの。）
-----	---

下記の会話例8においては、依頼者は「忙吗？（ちょっといいですか?）」という前置き表現を述べた後、「借我点钱呗，我等会买个书，我今天没带钱包，下次还你。（ちょっとお金を貸してもらってもいいかな、本を買に行きます。私は今日財布を忘れてしまって、今度返すわ。）」という一連の会話パターンを展開し、具体的な金額を言わず、情報を説明した後、保証表現を言及したことで、被依頼者を邪魔したくない表現である。

ここでは前置き表現は「4 仄めかし」とし、一連の会話パターンを見ると、被依頼者を邪魔されたくない表現と判断し、「3 ネガティブ・ポライトネス」とする（会話例8参照）。

#### 会話例8 ポライトネス・ストラテジーの選択：4-3

依頼者	诶，B，忙吗？（あの、Bさん、ちょっといいですか?）
被依頼者	还行还行，怎么啦？（いや、どうしたの?）
依頼者	嗯…借我点钱呗，我等会买个书，我今天没带钱包，下次还你。（うん…ちょっとお金を貸してもらってもいいかな、本を買に行きます。私は今日財布を忘れてしまって、今度返すわ。）

### 7.4 中国語母語話者・負担度・重度

中国語母語話者による負担度・重度の会話例を見ると、会話例9では依頼者は「我给你商量个事儿。（ちょっと相談なんだけど。）」という前置き表現を述べた後、情報を

説明した。その後、「所以你看,你能不能,不知道你现在手里有没有,先借我个3万块?(だからちょっと、できれば、Bさんに、持ってるかどうかわからないんだけど、3万円貸してもらえたらなって。)」という負担軽減の表現を述べ、依頼表現を述べる。最後に被依頼者に「你够不够?你要不够也没事儿,我找别人借。(どうかな?足りなくても大丈夫、他の人に聞いてみるから。)」という他の解決策を述べ、被依頼者の負担度を最小限にした。

ここでは前置き表現は「4 仄めかし」とし、情報説明も「4 仄めかし」とする。その後、負担軽減の表現は「3 ネガティブ・ポライトネス」とし、依頼表現は「1 あからさまに言う」とする。最後に、依頼者は被依頼者の負担度を最小限にする他の解決策を提示する行為は「3 ネガティブ・ポライトネス」とする（会話例9参照）。

### 会話例9 ポライトネス・ストラテジーの選択：4-4-3-1-3

依頼者	诶, B, 我给你商量个事儿。(ねえ、Bさん、ちょっと相談なんだけど。)
中略 依頼者の情報説明	
依頼者	所以你看,你能不能,不知道你现在手里有没有,先借我个3万块?(だからちょっと、できれば、Bさんに、持ってるかどうかわからないんだけど、3万円貸してもらえたらなって。)
被依頼者	呃, 3万是吗?(えっ、3万円なの?)
依頼者	你够不够?你要不够也没事儿,我找别人借。(どうかな?足りなくても大丈夫、他の人に聞いてみるから。)

## 8. 終わりに

今回のデータによると、日本語母語話者はポライトネス・ストラテジーの選択において、負担度・軽度でも重度でも一番多く使用したのが「4 仄めかし」であり、「2 ポジティブ・ポライトネス」はあまり使用しないことがわかった。負担度・軽度でも重度でも「4 仄めかし」に対しての選択は他のポライトネス・ストラテジーより結構大きな差があることがわかった。中国語母語話者はポライトネス・ストラテジーの選択において、負担度・軽度の場合においては、「1 あからさまに言う」「2 ポジティブ・ポライトネス」「4 仄めかし」の選択はほぼ同じであり、明らかな差がないことに対して負担度・重度の場合では、「3 ネガティブ・ポライトネス」は他のポライトネス・ストラテジーより大きな差があることがわかった。

また、ポライトネス・ストラテジーを選択した側面から、日中両言語の発話行為は「効率性」と「対人配慮」においては日本語母語話者が負担度・軽度でも重度でも「4 仄めかし」に対しての選択においては他のポライトネス・ストラテジーより大きな差があ

るので、被依頼者に自分の行動を邪魔されたくない、情報伝達の「効率性」より「対人配慮」を大切に考えることがわかった。中国語母語話者は「1 あからさまに言う」「2 ポジティブ・ポライトネス」「4 仄めかし」の選択はほぼ同じであり、明らかな差がないので、負担度・軽度の場合が情報伝達の個人差があり、重度の場合では「3 ネガティブ・ポライトネス」は他のポライトネス・ストラテジー選択より極めて大きな差があるので、情報伝達の「効率性」より「対人配慮」のほうを重視になることがわかった。

## 参考文献

- Brown, P., and Levinson, S. C. Politeness: Some Universals in Language Usage. Cambridge: Cambridge University Press. 1987. 田中典子・斉藤早智子・津留崎毅・鶴田庸子・日野壽憲・山下早代子訳 (2020) 『ポライトネス言語使用における、ある普遍現象』研究社
- 蒲谷宏・川口義一・坂本恵 (1993) 「依頼表現方略の分析と記述 — 待遇表現教育への応用に向けて—」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』5, 52 - 69.
- グエン・ティ・ニュー・イー (2014) 「依頼発話における談話構造に関する日越対照研究：依頼内容の負担度に着目して」『日本語・日本文化研究』24, pp. 93-103. 大阪大学
- 滝浦真人 (2018) 『ポライトネス入門』研究社
- 趙丹楠 (2019) 「中国語母語話者と日本語母語話者による依頼表現にみられる意味公式の対照研究」『外国語学研究科』21, pp.21-30.
- 辻岡咲子 (2019) 「依頼場面における許可求め表現の使用の動態」『國文學』103, pp.468-455.
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010) 『コミュニケーションと配慮表現』東京：明治書院